

保存版 生野区 わが家の防災マップ

編集と発行：生野区役所市民協働課 地域防災支援担当 ☎6715-9734 FAX 6717-1163

地震や台風などの災害に対して何より大切なことは、日頃の「備え」です。自然災害を食い止めることはできませんが、意識の向上や訓練を積み重ねることで、被害を最小限にとどめる「減災」は可能です。様々な機会をとおしてこのマップを活用いただき、災害からご家庭や地域を守る一助にいただければ幸いです。



もしもの時に対する備え

災害時の持出し品



電話が使えないとき

大規模な災害時には、一般電話や携帯電話の通話が制限されます。NTTの災害用伝言ダイヤルや携帯電話の災害伝言板を活用して、家族や友人に連絡しましょう。

①災害伝言ダイヤル171

NTT西日本（一般電話・音声）
「171」をダイヤルし、ガイダンスにしたがって伝言を登録・再生できます。

②災害伝言板

安否情報を登録すると、家族や友人が携帯電話やパソコンから確認できます。詳しくは、各社のホームページなどをご覧ください。

◆携帯電話 災害伝言板

（NTTドコモ）<http://www.nttdocomo.co.jp/info/disaster/>

〈au〉<http://dengon.ezweb.ne.jp>
〈ソフトバンクモバイル〉<http://dengon.softbank.ne.jp>
〈ウィルコム〉<http://dengon.willcom-inc.com>

◆パソコン（テキスト、音声、画像）

〈NTT西日本〉
「災害用ブロードバンド伝言板（web171）」
<https://www.ntt-west.co.jp/dengon/web171/>

※これらのサービスは、毎月1-15日、
防災週間（8月30日～9月5日）、防災
とボランティア週間（1月15日～21
日）に体験利用できますので、安否情
報を登録してみましょう。



けがをしたときの応急手当

●出血

〔傷口を直接圧迫〕
傷口にきれいなガーゼやハンカチを当て、強く押さえ、直接圧迫する。



●やけど

すぐにきれいな水で冷やす。
衣服の上からやけどしたときは、衣服ごと冷やす。
水ぶくれは、雑菌が入るためつぶさないように。

●骨折

身近なもので固定する。例えば、バットや、傘、ものさし、つえなどを利用する。
固定する位置（角度）は、傷病者の最も痛みの少ない位置とする。

●ひきつけ

(1) 衣類をゆるめる。
(2) 横向きにねかせ、口の中にとまった液などを外に出やすくする。
(3) 熱が高いときは頭や首、脇の下を冷やす。

●のどに物がつかえたとき

〔背部叩打法〕

手のひらで背中を強く数回たたく。



風水害に対する備え



ここがポイント!

早めに避難しましょう!

風水害から身を守るために

① 気象情報に注意する

テレビやラジオ、電話（177）、インターネットなどを利用して、気象庁から発表される警報・注意報や、区役所・消防署からの情報に注意しましょう。

降雨情報

大阪市のホームページ（<http://www.city.osaka.jp/ame/>）で、市内の雨の量や天気予報などの情報をご覧ください。



② むやみに外出しない

台風が接近しているときや豪雨のときは、外出しないようにしましょう。止むを得ず外出する際は、天気予報を確認し、少しでも危険を感じる場所には近づかないようにしましょう。特に堤防・海辺・河川への見物は事故のもとです。

風が強いとき

① 路上にいるとき

強風で瓦や看板が飛んだり、街路樹などが倒れたりします。無理して歩かず近くの頑丈な建物に避難しましょう。



② 屋内にいるとき

風圧や飛来物で窓ガラスがわれ、破片が吹き込む危険があります。風が強いときは窓に近づかないようにしましょう。

③ 海辺にいるとき

海への転落や高波に巻き込まれる危険があります。また、高潮のおそれもあるので、速やかに高台へ避難しましょう。強風や豪雨の時には、警報が聞こえないこともあるので十分に注意しましょう。

大雨のとき

① 河原にいるとき

上流の豪雨による急な増水の危険があります。川などに近づかないようにしましょう。警報が聞こえたら速やかに避難しましょう。

② 車を運転しているとき

視界が悪く、ハンドル操作やブレーキがきかなくなることもあります。すでに浸水している道路に差しかかったら、水の流れを横切る方向へ移動し、高台へ避難しましょう。



③ 路上にいるとき

浸水してきたら、しっかりした建物の3階以上へ避難しましょう。その際は、なるべく階段を使って上の階へ行きましょう。

「まだ大丈夫」「自分だけは大丈夫」と思い込まず、早めに避難することが命を守るポイントです。

テレビやラジオの情報に注意して、早めの避難を心がけましょう。

風水害時に避難するときは

① 動きやすく安全な格好で避難

ヘルメットや防災頭巾などで風で飛ばされてくるものから頭を保護し、すべりにくい靴を履きましょう。裸足や長靴は危険です。荷物は最小限に、両手がふさがらないようにしましょう。

② 深さに注意

歩行可能な浸水は、男性で70cm、女性で50cmが目安です。ただし、くるぶし程度の浸水でも、流れが激しい場合は歩行せず高いところで救援を待ちましょう。



③ 足元に注意

水面下にはふたの外れたマンホールや側溝などの危険な場所があります。長い棒などを杖代わりにして足元の安全を確認しながら歩きましょう。

④ 一人で行動しない

隣近所に声をかけて集団で避難しましょう。はぐれないように体の一部をロープで結ぶとよいでしょう。



⑤ 子どもや高齢者などへの配慮

高齢者や病人等は背負い、子どもには浮き輪をつけて安全を確保しましょう。

⑥ 避難所が遠いとき

真っ暗闇ですでに浸水している場合など、避難所へ行くのが困難な場合は、近くの3階以上の建物に一時避難しましょう。

